

事業所における自己評価結果（公表）

公表:令和 年 月 日

事業所名 アバンツアーレスポーツ

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
環境・ 体制 整備	①	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係 で適切である	80.00%	20.00%			
	②	職員の配置数は適切である		100.00%			・他の事業所に比べると少ないように感じる。
	③	事業所の設備等について、バリアフリー化の 配慮が適切になされている		60.00%	40.00%		・バリアフリーになっていない。特にドアやトイレの構造が危険。
業務改善	④	業務改善を進めるためのPDCAサイクル (目標設定と振り返り)に、広く職員が参画 している	40.00%	60.00%			・提案があっても実行 となると非常に弱い、 参画とは言えない。
	⑤	保護者等向け評価表を活用する等によりアン ケート調査を実施して保護者等の意向等を 把握し、業務改善につなげている	60.00%	40.00%			・アンケートは3段階で はなくもう少し細分化 すべきだと思う、汲み 取ることが出来ない。
	⑥	この自己評価の結果を、事業所の会報や ホームページ等で公開している	100.00%				・会報誌でお知らせす べきだと思う。
	⑦	第三者による外部評価を行い、評価結果を 業務改善につなげている		60.00%	40.00%		
	⑧	職員の資質の向上を行うために、研修の機 会を確保している	80.00%	20.00%			・研修が多いのは良 い。
適切 な支 援の 提供	⑨	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者の ニーズや課題を客観的に分析した上で、 放課後等デイサービス計画を作成している	60.00%	20.00%	20.00%		・分析まで時間をかけ た計画にはなっていな いと思う、面談の結果 がわからない。
	⑩	子どもの適応行動の状況を図るために、標準 化されたアセスメントツールを使用している	60.00%	20.00%	20.00%		
	⑪	活動プログラムの立案をチームで行っている	20.00%	60.00%	20.00%		日常ではない、コーチ の指導案がないので 補助はその人任せ。
	⑫	活動プログラムが固定化しないよう工夫して いる	60.00%	20.00%	20.00%		・固定化していて子供 が飽きている。
	⑬	平日、休日、長期休暇に応じて、課題をきめ 細やかに設定して支援している	40.00%	40.00%	20.00%		・課題の設定がない。
	⑭	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動 を適宜組み合わせ放課後等デイサービス 計画を作成している	60.00%	20.00%	20.00%		・個別活動の支援がな い。
	⑮	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の内容や役割分担に ついて確認している	40.00%	40.00%	20.00%		・ショートMTGが一度 決めたのにいつの間 にか亡くなった。
	⑯	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、 その日行われた支援の振り返りを行い、 気付いた点等を共有している		80.00%	20.00%		・出来ていない。
	⑰	日々の支援に関して正しく記録をとることを 徹底し、支援の検証・改善につなげている	60.00%	40.00%			・記録はとっているが、 どうしてもぬけが出て いる、要改善。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
関係機関や保護者との連携	⑱	定期的にモニタリングを行い、放課後等 デイサービス計画の見直しの必要性を判断 している	60.00%	40.00%			・定期的でもなく、いつ 行うか設定されていな い、突然始まる。
	⑲	ガイドラインの総則の基本活動を複数組み合 わせて支援を行っている	40.00%	60.00%			
	⑳	障害児相談支援事業所のサービス担当者 会議にその子どもの状況に精通した最も ふさわしい者が参画している	60.00%	40.00%			・都合に合わせて参加 していると思う。
	㉑	学校との情報共有（年間計画・行事予定 等の交換、子どもの下校時刻の確認等）、 連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時 の連絡）を適切に行っている	60.00%	40.00%			
	㉒	医療的ケアが必要な子どもを受け入れる場合 は、子どもの主治医等と連絡体制を整えてい る	20.00%	60.00%	20.00%		・こうした件に関して話 が出た事がないので わからない。
	㉓	就学前に利用していた保育所や幼稚園、 認定こども園、児童発達支援事業所等との 間で情報共有と相互理解に努めている		80.00%	20.00%		・担当者会議などで行 えていると思うが個別 にはわからない。
	㉔	学校を卒業し、放課後等デイサービス事業所 から障害福祉サービス事業所等へ移行する 場合、それまでの支援内容等の情報を提供 する等している	20.00%	80.00%			・卒業生の申し送りにつ いては内容を聞いた 事がないし、今回の 卒業生もどのように行 うか知らない。
	㉕	児童発達支援センターや発達障害者支援 センター等の専門機関と連携し、助言や研修 を受けている	20.00%	60.00%	20.00%		
	㉖	放課後児童クラブや児童館との交流や、障 害のない子どもと活動する機会がある		40.00%	60.00%		・全くないと思う。ある と良いと思う。
	㉗	（地域自立支援）協議会等へ積極的に 参加している		60.00%	40.00%		
	㉘	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、 子どもの発達の状況や課題について共通理 解を持っている	80.00%	20.00%			・出来ていると思う。
	㉙	保護者の対応力の向上を図る観点から、 保護者に対してペアレント・トレーニング等の 支援を行っている		40.00%	60.00%		・やっていると感じた 事がないし、内容につ いて共有された事がな い。
	保	⑳	運営規程、支援の内容、利用者負担等に ついて丁寧な説明を行っている	100.00%			
㉑		保護者からの子育ての悩み等に対する相談 に適切に応じ、必要な助言と支援を行って いる	60.00%	40.00%			・経験の長い従業員が 行う形になっているの で多くの者が対応でき れば良い。
㉒		父母の会の活動を支援したり、保護者会等 を開催する等により、保護者同士の連携を支 援している	20.00%	60.00%	20.00%		・コロナが収まりつつ あるので、イベントを行 うと良い、特に母親向 け。

		チェック項目	はい	どちらとも いえない	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた 改善内容又は改善目標
護 者 へ の 説 明 責 任 等	③③	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応している	60.00%	40.00%			・共有出来ていると思う。
	③④	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	100.00%				・毎月発行している。
	③⑤	個人情報に十分注意している	80.00%	20.00%			・特にSNSに留意。
	③⑥	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	100.00%				
	③⑦	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	20.00%	20.00%	60.00%		・行えていない、地域が暖かくも守ってくれている恩返しをした方が良い。
非 常 時 等 の 対 応	③⑧	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルを策定し、職員や保護者に周知している	40.00%	60.00%			・マニュアルが整備。
	③⑨	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	80.00%	40.00%			
	④⑩	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	100.00%				
	④⑪	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載している	20.00%	40.00%	40.00%		・話し合いが出来ていない、今後は大事な事だと思う。
	④⑫	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている		80.00%	20.00%		・ない
	④⑬	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	20.00%	40.00%	40.00%		・ヒヤリハットのフォーマットの保管について共有されていない。

この「事業所における自己評価結果(公表)」は、事業所全体で行った自己評価です。